

研究大学コンソーシアム・シンポジウム2017. 12. 6

リサーチ・アドミニストレーター
協議会 (RA協議会)
～成功事例と今後の課題～

RA協議会

会長 山崎光悦 (金沢大学)

<http://www.rman.jp/>

RA協議会設立に向けた活動経緯

2009年
学術研究懇談 (RU11)
URAを育成・確保につ
いての議論がスタート

2011年 文部科学省
「URAを育成・確保す
る整備事業」スタート

主幹校 東京大学
第1回 URA シンポ

主幹校 名古屋大学
第2回 URA シンポ

第3回 URA シンポ / 第5回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 大阪大学 & 京都大学)

第4回 URA シンポ / 第6回 RA 研究会 合同大会
(主幹校 北海道大学)

RA 協議会
年次大会

- ・ スキルアップ
- ・ 相互研鑽
- ・ 事例蓄積
- ・ 情報交換
- ・ キャリアパス
- ・ 評価、組織設計など

2009

2010

2011

2012

2015

2016

RA 研究会
第1回 48人

第2回 66人

第3回 94人

第4回 203人

人

事業採択校メン
バーを中心にネッ
トワーク組織設立
に向けた議論を開
始

2014年9月
17&18日

関連活動との連携
・ 大学事務職員
・ 産学連携関係

RA協議会設立にむけた検討経緯

第1回合同大会

第2回合同大会

RA協議会
年次大会

(実績) 第1回(信州) 419名
第2回(福井) 514名
第3回(徳島) 559名

2013年度

2014年度

2015年度以降

11月18&19日

第3回URAシンポ
/第5回RA研究会
合同大会

19日最終セッション:
・ネットワーク組織設立検討開始と参加のよびかけ

URAネットワーク
設立準備委員会
3月10日発足

・2014年2月末までの賛同者のうち、「所属組織から了解の下」設立準備に参画するメンバー 22機関から構成。

・2014年4月~9月(5回の全体委員会、その他WGレベルの検討を進めた)

9月17&18日

第4回URAシンポ
/第6回RA研究会
合同大会

登録約550人

18日最終セッション:
・RA協議会設立準備会の設置
・会員加入の呼びかけ開始

第1回
設立
総会

RA協議会

運営委員会

理事会的な機能

年次大会
企画・運営委
分科会

情報発信
分科会

スキルプロ
グラム
分科会

・会員制度、年会費制度を計画
・主に組織会員による運営
・事務局担当大学

大会開催経費の考え方

2013年度

・URA整備事業費

2014年度

・「URA整備事業費」との連携

2015年度以降

・年次大会は会員の年会費より支出
・実情に合わせ「参加費による自立的な運営」「企業から賛助金を獲得」

リサーチ・アドミニストレーターのための 全国的ネットワーク組織形成の意義

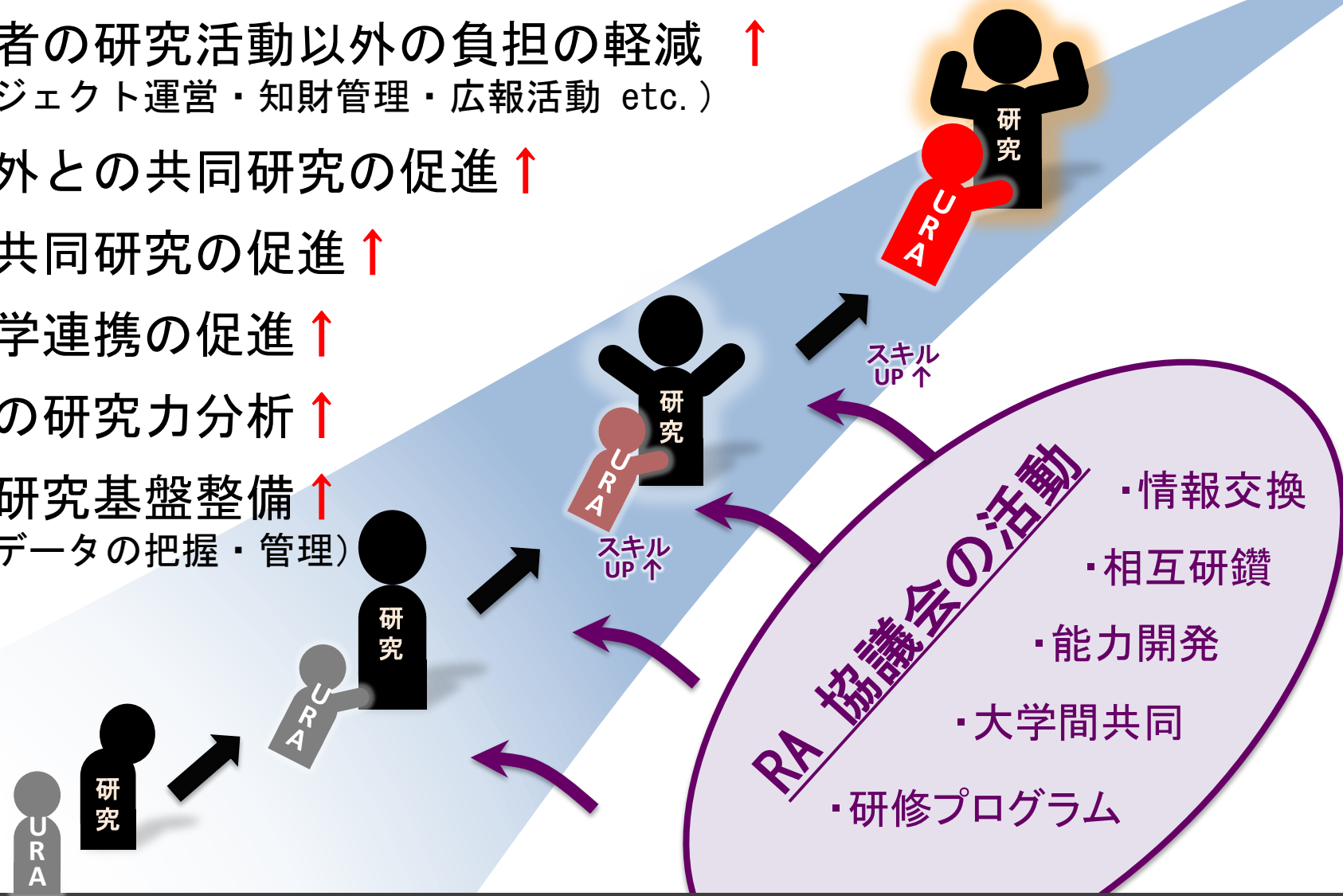
◆個々の「大学」研究力強化への貢献

◆URA実務者の能力向上への貢献

実務者のネットワーク形成を、全国の各機関が組織的に支援していくことが必要

個々の「大学」研究力強化への貢献

- ・ 研究者の研究活動以外の負担の軽減 ↑
(プロジェクト運営・知財管理・広報活動 etc.)
- ・ 学内外との共同研究の促進 ↑
- ・ 海外共同研究の促進 ↑
- ・ 産官学連携の促進 ↑
- ・ 大学の研究力分析 ↑
- ・ 学内研究基盤整備 ↑
(学内データの把握・管理)



RA協議会のネットワークを通じて強化される URA の能力

URA実務者の能力向上への貢献

専門人材としての俯瞰的視野の獲得・向上

- （個人の集合体ではない）組織としての継続性、信頼性
- 知識体系の確立・更新、スキル向上
- URA関連業務従事者を含むキャリアパスの展開

継続的なURA実務者へのスキルUP教育

- 新規採用者への知識体系の教育、技能トレーニング
- 小規模大学など一機関で実施が困難な組織での展開

大学の特徴把握とその手法の確立、向上

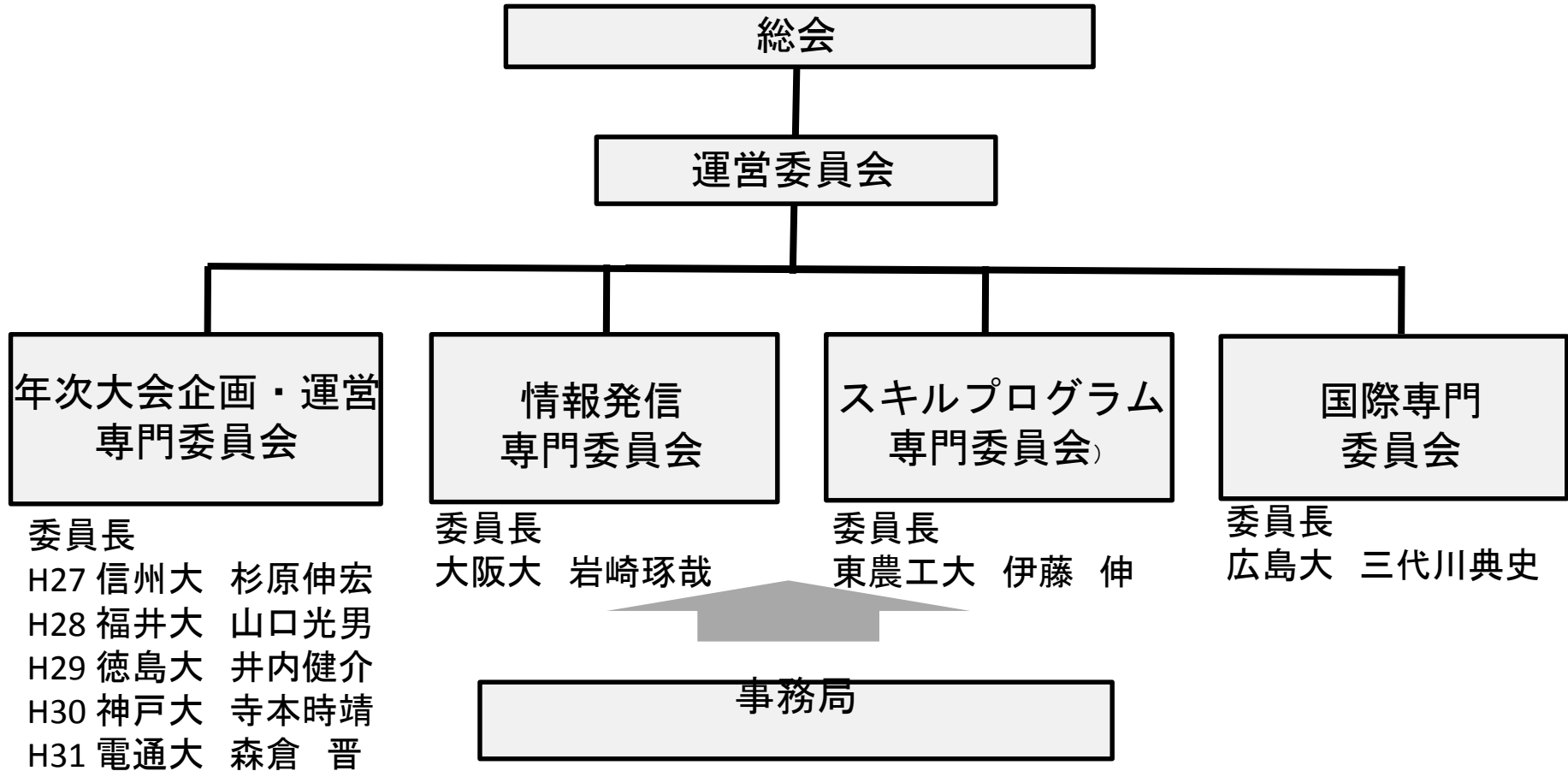
- 個々の組織の特徴把握から研究力強化へ

政府系研究開発制度（公的研究資金による）の理解促進

- 政策等を踏まえた事業の計画、実施、規程の遵守

リサーチ・アドミニストレーター協議会 体制・構成図

平成29年1月24日現在



会 長：金沢大 山崎 光悦
 副会長：大阪大 池田 雅夫
 副会長：金沢工大 高橋 真木子

組織会員	23機関
組織内個人会員数	279名
組織外個人会員数	116名
合計	395名

協議会の主たる活動、専門委員会活動

- 年次大会企画・運営専門委員会

年次大会の企画・実施を担う。財政規模をふまえた実現可能な規模感を重視し、一組織に過度の負担がかからない継続可能な運営形態を検討していく。

また、スキルプログラム専門委員会と連動し、単年度の大会実施に閉じず、持続性のある教育研修の場となるようプログラム企画を行う。

- 情報発信専門委員会

協議会の活動全般を発信するWebコンテンツの編集企画、および内容の適否をチェックするレビュー機能の両方を担う。

- スキルプログラム専門委員会

協議会への期待として、リサーチアドミニストレーターの基準策定、能力把握、将来的な資格認定制度の要望は高い。H21～23年度に作成されたスキル標準（東京大学受託）、教育研修プログラム（早稲田大学受託）を活用し、能力把握とその指標、将来的には資格認定につながるプログラムの検討・実施を担う。

- 国際専門委員会

海外URA組織との国際交流及び情報収集、海外共同研究の促進や教育プログラムに関する連携の検討等を担う。

年次大会企画・運営専門委員会

○年次大会開催実績

	開催日	場所	主催	参加人数、機関数	内容詳細
第1回	H27/9/1.2	長野	信州大	参加人数:419名 機関数:116機関	<p>・大学執行部セッション 「大学経営におけるURAの活用」</p> <p>モデレーター:金沢大学 学長 山崎 光悦 パネリスト:神戸大学 理事(研究・産学連携担当) 小川 真人 信州大学 学長 山沢 清人 徳島大学 学長 香川 征 長崎大学 理事(研究担当) 福永 博俊 福井大学 理事(研究・国際担当) 岩井 善郎</p> <p>コメンテーター:文部科学省 科学技術・学術政策局長 川上 伸昭</p> <p>・セッション数 25</p>
第2回	H28/9/1.2	福井	福井大	参加人数:514名 機関数:140機関	<p>・大学執行部セッション 「科学技術イノベーションへの貢献」</p> <p>モデレーター:金沢大学 学長 山崎 光悦 パネリスト:文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長 坂本 修一 福井大学 理事(研究, 産学・社会連携担当)/副学長 岩井 善郎 大阪大学 経営企画オフィス シニア・リサーチ・マネージャー 池田 雅夫 九州大学 理事(副学長) 若山 正人 ニューメキシコ大学(州立) 技術移転&経済開発事務所(STC.UNM) 大学ベンチャー&国際事業マネージャー 星 エリ</p> <p>・セッション数 29</p>
第3回	H29/8/29.30	徳島	徳島大	参加人数:559名 機関数:146機関	<p>・大学執行部セッション 「日本の学術を支えるのは誰か?—研究力強化と産学官連携」</p> <p>モデレーター:金沢大学 学長 山崎 光悦 パネリスト:文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室長 村瀬 剛太 大阪大学 総長 西尾 章治郎 名古屋大学 学術研究・産学連携推進本部 副本部長 廣明 秀一 徳島大学 学長 野地 澄晴</p> <p>・セッション数 36</p>
第4回	H30/9/19.20	神戸	神戸大	-	-
第5回	H31	東京	電通大	-	-

NCURA発行のリサーチ・アドミニストレーションに関する概要を説明した冊子、「The Role of Research Administration」の翻訳版は事務局までお問い合わせください。

RA協議会第3回年次大会のホームページを公開しました。

<http://www.rman.jp/meetings2017/>

RA協議会年次大会実行委員会事務局の徳島大学 研究支援・産官学連携センター URA部門のWeb担当です。

この度、新たに、RA協議会第3回年次大会のHPを公開しました。年次大会についてのお知らせは、こちらのサイトでまいりますので、ご確認いただきましたら幸いです。

今後ともよろしくお願いたします。

リサーチ・アドミニストレーター協議会参画のお願い

リサーチ・アドミニストレーター協議会会長 山崎 光悦

現在、我が国の学術研究において、国際競争力を有する大学・研究機関(以下「大学等」という)の層を厚くすることが強く求められ、関連の施策が進められています。教育基本法の改正で、社会的な活動もミッションとして位置付けられたように、大学等が国内外において、その社会的な存在価値を高めていくことが求められています。このような要求に応えていくためには、研究者の負担軽減に資する各種の支援業務を充実するとともに、長期的かつ、幅広い視点を持って、研究戦略に基づく実効ある研究体制・環境を構築すること及びそれを実現する組織体としての大学経営を実施することが不可欠です。

[続きを読む >](#)

◀ シェア (みなさまから頂戴したイベント案内等)

第4回「科学者の不正行動に関する研究会」開催のご案内 (12/15) (2017. 11. 14)

【11/17開催】CoPURA分科会 NEDO制度説明会のお知らせ (2017. 11. 13)

サイエンスアゴラ内企画 リサーチコンプレックス推進プログラムセッション「世界に誇る、地域発サイエンスまちづくりとは!?」について (2017. 11. 08)

【ご案内】電気通信大学シンポジウム「大学等におけるURA機能の拡大に向けて」(12/8)のご案内 (2017. 11. 06)

【開催案内】特別シンポジウム「人材大変革時代の大学における知の多様化に向けて」(2017年12月15日開催・京都大学) (2017. 11. 06)

研究職員の公募について(科学技術・学術基盤調査研究室) (2017. 11. 02)

「アクア・イノベーション拠点(COI)・第5回シンポジウム in Tokyo」のご案内 (2017. 10. 25)

RA協議会第3回年次大会「B-1: URA組織のマネジメント」の講演録を公開しました。(2017. 10. 24)

【開催案内】広島大学・ドイツ研究振興協会(DFG)日本代表部共催 公開サテライトシンポジウム (2017年11月15日開催) (2017. 10. 14)

【10月20日開催】CoPURA第3回ミーティングを開催します (2017. 09. 29)

RA協議会について

設立目的と事業内容

組織・運営・分科会

会則

会員一覧

お問い合わせ先

入会案内

お問い合わせ先

サイトポリシー

専門委員会一覧

年次大会企画・運営分科会

情報発信専門委員会

スキルプログラム専門委員会

国際専門委員会

組織会員一覧

東京農工大学

金沢大学

福井大学

課題

年次大会等でRA協議会に蓄積した情報をどのようにして社会へ普及・公開していくか



情報発信ワーキンググループ 発足

検討事項

- テーマ1：年次大会における情報の取り扱いと活用について
- テーマ2：RA協議会によるジャーナル発行について
- テーマ3：ウェブサイトの活用について

スキルプログラム専門委員会①

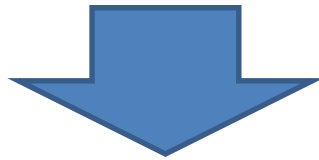
○教育・研修プログラム実績(H28より開始)

	開催日	場所	参加人数	対象者	内容詳細
第1回	H28/5/19 10:30-17:00	東京	参加人数:21名 (募集15名程度) (内訳:国立大9名 公立大1名 私立大8名 その他3名)	RA業務に従事して 間もない方から1年 程度の経験者	「URA概要(業務全体の知識)」(講師:金沢工業大学・高橋真木子) 「若手URAによる自身の活動概要」(講師:情報・システム研究機構・横尾成子) 「ケースを用いた演習」(講師:東京農工大学・伊藤伸、ファシリテーター:長崎大学・王鴻香、金沢工業大学・高橋真木子)
第2回	H28/8/31 10:30-16:30	福井	参加人数:15名 (募集15名程度) (内訳:国立大10名 私立大4名 企業1名)	RA業務に従事して 間もない方から1年 程度の経験者	「URA概要(業務全体の知識)」(講師:荒木寛幸・科学技術・学術政策研究所) 「若手URAによる自身の活動概要」(講師:原健太・立命館大学) 「ケースを用いた演習」(講師:長崎大学・王鴻香、ファシリテーター:東京農工大学・伊藤伸)
第3回	H28/9/2 (RA協議会第2 回年次大会 教 育セッション)	福井	ポストアワード 参加人数:50名 プレアワード 参加人数:42名	RA業務に従事して 間もない方から3年 程度の経験者	プレアワード(講師:明治大学・小澤芳明) ポストアワード(講師:科学技術振興機構(JST)・二階堂 知己)
第4回	H29/5/19	東京	募集:15名程度	RA業務に従事して 間もない方から1年 程度の経験者	URA概要(業務全体の知識)(講師:金沢工業大学・高橋真木子) 若手URAによる自身の活動概要(講師:情報・システム研究機構・横尾成子) ケースを用いた演習(講師:東京農工大学・伊藤伸、ファシリテーター:長崎大学・王鴻香、金沢工業大学・高橋真木子)
第5回	H29/8/28	徳島	募集:15名程度	RA業務に従事して 間もない方から1年 程度の経験者	「URA概要～URA業務全般の知識～」 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 講師/URA 阿部 紀里子 「アウトリーチを意識したURA業務」 大阪大学 経営企画オフィス URA 部門 リサーチ・マネージャー / 学術 政策研究員 岩崎 琢哉 プレアワード/ポストアワード 首都大学東京 総合研究推進機構URA室 主席URA/主任研究員 柴 田 徹
第6回	H29/8/29.30 (RA協議会第3 回年次大会 教 育セッション)	徳島	-	RA業務に従事して 間もない方から3年 程度の経験者	プレアワード 契約

職業としてのURAに関する問題意識

- セカンドキャリア、テンポラリ職から、永続的な高度専門職としての定着へ
- 人材の流動性の確保
- スキルを証明する客観的な制度の必要性

6回の教育・
研修プログラム
でも顕在化



RA協議会における重要な課題の一つとして検討を開始

スキルプログラム専門委員会
(委員長：東京農工大 伊藤伸 教授)において、
資格認証WGを発足

東大スキル標準(例1)

URAに必要な知識・能力・**研究戦略推進支援業務**(3業務)、**プレアワード業務**(5業務)、**ポストアワード業務**(5業務)、**関連専門業務**(9業務)に分類

URA業務内容

リサーチ・アドミニストレーターの業務内容

(1) 研究戦略推進支援業務 (3業務)

- ①政策情報等の調査分析
- ②研究力の調査分析
- ③研究戦略策定

(2) プレ・アワード業務 (5業務)

- ①研究プロジェクト企画立案支援
- ②外部資金情報収集
- ③研究プロジェクト企画のための内部折衝活動
- ④研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整
- ⑤申請資料作成支援

(3) ポスト・アワード業務 (5業務)

- ①研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整
- ②プロジェクトの進捗管理
- ③プロジェクトの予算管理
- ④プロジェクト評価対応関連
- ⑤報告書作成

(4) 関連専門業務 (9業務)

- ①教育プロジェクト支援
- ②国際連携支援
- ③産学連携支援
- ④知財関連
- ⑤研究機関としての発信力強化推進
- ⑥研究広報関連
- ⑦イベント開催関連
- ⑧安全管理関連
- ⑨倫理・コンプライアンス関連

スキルプログラム専門委員会③

東大スキル標準 (例2)

URAに必要な知識・能力をURAの業務特性の例を基に、4つの型に分類

	初級	中級	上級
研究戦略支援			
プレアワード			
ポストアワード			
関連専門業務			

初級 URA 型

	初級	中級	上級
研究戦略支援			
プレアワード			
ポストアワード			
関連専門業務			

オールラウンド型

	初級	中級	上級
研究戦略支援			
プレアワード			
ポストアワード			
関連専門業務			

研究戦略・プレアワード特化型

	初級	中級	上級
研究戦略支援			
プレアワード			
ポストアワード			
関連専門業務			

専門特化型

資格認証WG 発足

活動目的：

RA協議会における資格認証制度の実施について状況の把握と議論や課題の整理をした上で、具体的な選択肢を取りまとめ、協議会に対して提示する。

活動期間：

2017年7月～1年間（平成29年度に調査を実施し、30年度に報告をまとめる。）

活動内容：

- URAの意識調査
- 認証すべきスキルの範囲、判定方法の検討
- 運営の設計と実現可能性の検討 等

INORMS

(International Network of Research Management Societies)

米NCURA、英ARMA、豪ARMSのほか、カナダやドイツ、南アフリカ、ブラジルなどから17のURA組織が参加する研究マネジメント関連の協会や団体からなるネットワーク。2年毎に各国のURA組織が持ち回りで大会(Congress)を開催している。

inorms

International Network of Research Management Societies

Home About us Membership Activities Resources Contact

Current Members

- Association of Research Managers and Administrators (UK)
- Australasian Research Management Society (ARMS)
- Brazilian Association of Research Managers and Administrators (BRAMA)
- Canadian Association of Research Administrators (CARA)
- Danish Association of Research Managers and Administrators (DARMA)
- European Association of Research Managers and Administrators (EARMA)
- Finnish Association of Research Managers and Advisors (Finn-ARMA)
- German Association for Research Managers and Administrators (GARMA)
- Icelandic Association for Research Managers and Administrators (ICEARMA)
- National Council of University Research Administrators (NCURA)
- Norwegian Network for Administration and Research Management (NARMA)
- PraxisUnico
- **Research Manager and Administrator Network Japan (RMAN-J)**
- Southern African Research and Innovation Management Association (SARIMA)
- Society of Research Administrators International (SRAI)
- West African Research and Innovation Management Association
- The Association of Commonwealth Universities (ACU)

Join INORMS

Application details will be uploaded soon

Web

▪ INORMS2020 応募、採択までの経緯

2012年9月 第4回 RA研究会 国際シンポジウム
SRA CEO Dr. Kulakowski, Elliott C 招待講演

2016年9月 INORMSメルボルン大会でのRA協議会のINORMS加盟承認

2017年1-3月 INORMS2020プロポーザル（広島開催立候補）提出

2017年4月 **INORMS Council Meetingでプロポーザルが採択**

▪ 現在の準備状況

- 主幹校広島大学を中心に国際WG を発足し、準備中
- RA協議会年次大会の国際化の推進⇒第4回年次大会in神戸のテーマの一つに「国際化」を入れる。
- RA協議会Webサイトの一部英語化。

INORMS2020 広島
にご協力の程よろしく
お願いいたします。

研究大学コンソーシアムの協賛団体として名
を連ねていただくことを要請したい！

(連絡先)

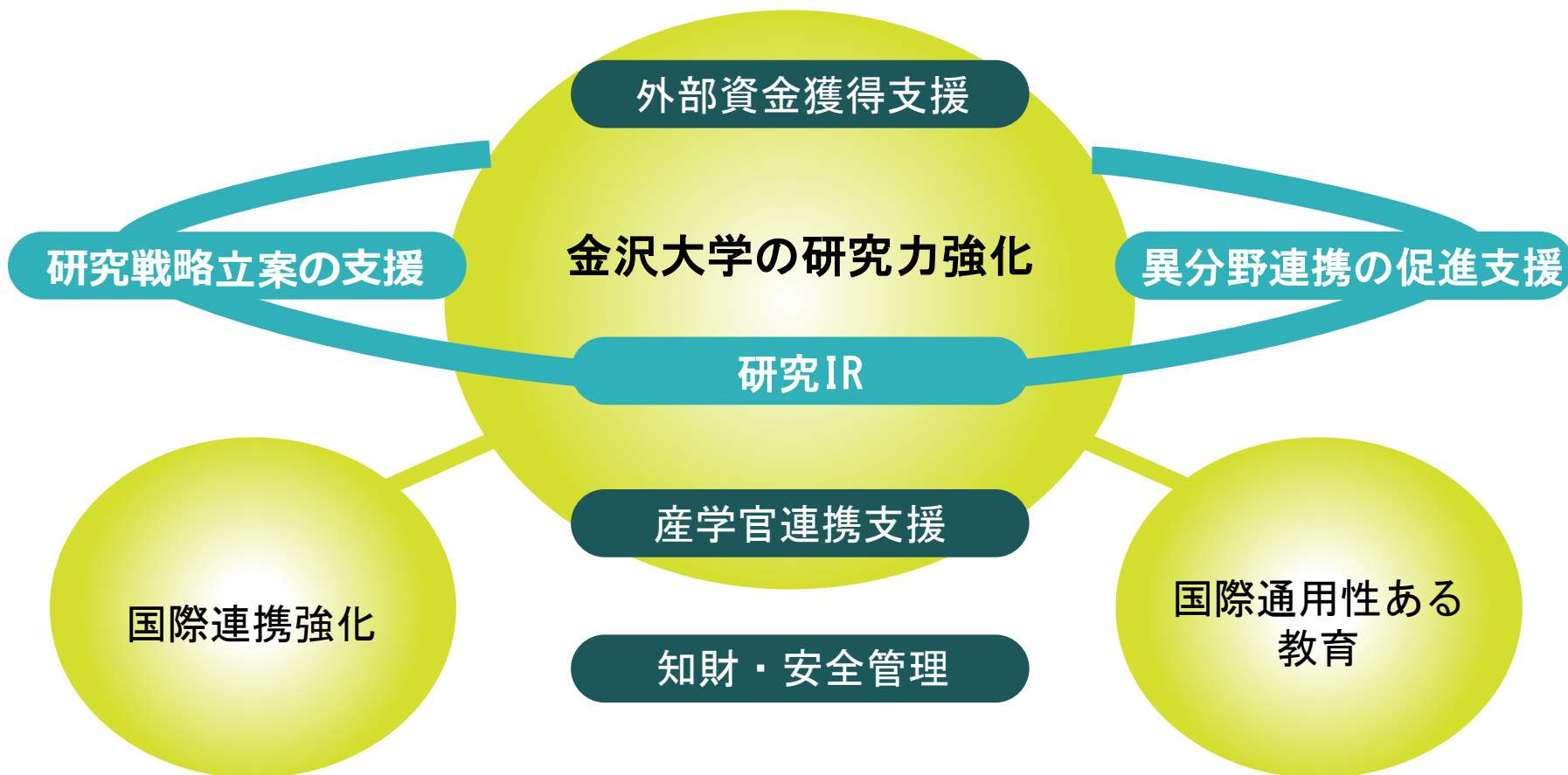
RA協議会 事務局

担当: 金沢大学先端科学・イノベーション推進機構

〒920-1192 金沢市角間町

E-mail: rac@adm.kanazawa-u.ac.jp

大学全体の研究力強化に繋がる企画・実施・支援



研究，産学連携，国際連携，教育に関わる事項に一体的に関与



拠点長：福間剛士

周波数変調原子間力顕微鏡 (FM-AFM) による液中原子分解能観察を世界で初めて実現し、生体分子の表面構造や、固液界面に形成された3次元水和・揺動構造のサブナノスケール液中観察を可能とした。本拠点では、これらの技術を基盤として細胞内のナノ動態を直接観察、分析、操作できるナノ内視鏡技術を開発し、それにより様々な生命現象のナノレベルでの根本的理解を目指す。

目標

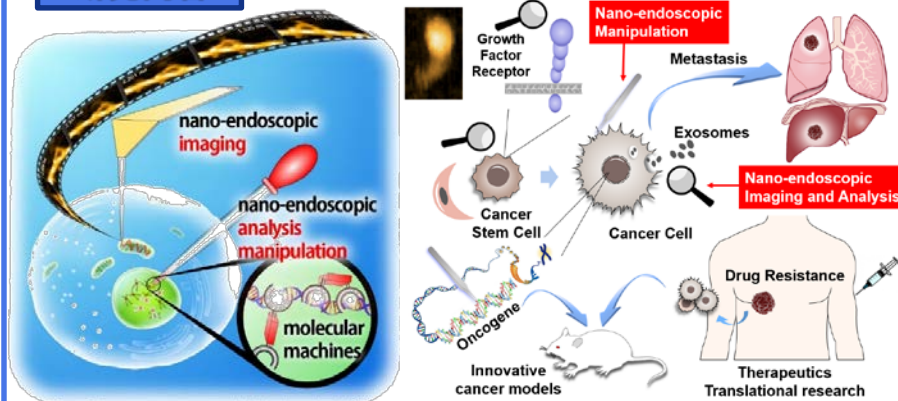
世界最先端のバイオSPM (走査型プローブ顕微鏡) 技術と超分子化学技術を融合・発展させ、細胞の表層や内部におけるタンパク質、栄養素、核酸などの動態をナノレベルで直接観察、分析、操作するための「ナノ内視鏡技術」を開発する。さらに、この技術とマルチスケールシミュレーション技術を相補的に用いることで、「がん」の悪性化に関係する様々な分子細胞動態を正常細胞と異常細胞の比較によりナノレベルで理解する。その過程で開発する技術や獲得する知見を基盤として、「がん」を含む様々な生命現象の根本的な理解を目指す新学問領域、「ナノプローブ生命科学」を創出する。



特徴

- 本学は、異分野融合による新学術創成を目的とする恒久的組織を戦略的に構築してきた。本拠点はこの既存組織の人的・資金的リソースを活用し、拠点の永続性を確保する。
- 管理運営業務を最低限まで免除する、本学独自の「リサーチプロフェッサー制度」をすべての主任研究者に適用し、研究に専念できる環境を用意する。
- 主任研究者らが学生指導を行う特別選抜教育プログラムを設置し、学際性・総合性・国際性を有する若手研究者を育成する。

研究内容



1. 高速・3次元原子間力顕微鏡 (AFM) や高速走査型イオン伝導顕微鏡 (SICM) などの金沢大学が世界に誇る最先端バイオSPM技術を融合させ、細胞内外でのナノ動態観察を実現
2. バイオSPM技術と、分子センサや分子機械などの超分子化学技術を融合させ、細胞内外でのナノ動態の分析・操作を実現
3. 革新的ナノプローブ技術とシミュレーション技術を駆使して、がん細胞の示す様々な機能異常の原因をナノレベルで解明

連携

欧州拠点：Imperial College London, London, UK
 北米拠点：The University of British Columbia, Vancouver, Canada

これらの機関にサテライト研究拠点を設置し、連携研究を強化するとともに、国際シンポジウムを日本、欧州、北米の順で毎年一度開催し、当拠点の世界的なvisibilityを向上させる。

成功事例②

ナノ生命科学研究所 NanoLSI: Nano Life Science Institute

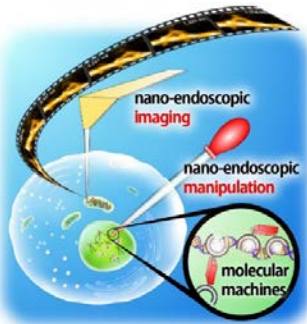
バイオSPM

Fukuma Ando Korchev



- 高分解能・3次元AFM
- 高速AFM・SICM

ナノ内視鏡技術



nano-endoscopic imaging
nano-endoscopic manipulation
molecular machines

超分子化学


Akine Maeda Ogoshi MacLachlan



- 分子センサ
- 分子機械

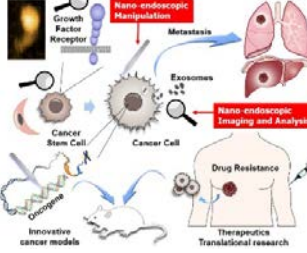
数理計算科学

Foster Mikhailo



- SPMシミュレーション
- 生物シミュレーション

基礎細胞機能とそのがん特有の異常性を根本的に理解



Growth Factor Receptor
Cancer Stem Cell
Innovative cancer models
Nano-endoscopic Manipulation
Metastasis
Cancer Cell
Exosomes
Nano-endoscopic Imaging and Analysis
Drug Resistance
Therapeutic Translational research

生物学・医学・薬学

Hirao Oshima Yano Matsumoto



Hanayama Wong Nakajima



- がん幹細胞 / 微小環境、分子標的治療
- 基礎分子細胞生物学、薬学

“ナノプローブ生命科学”
革新的ナノプローブ技術により生命現象の仕組みをナノレベルで根本的に解明

成功事例③

○役割分担及び事務との融合の成功

公募前

- ・ 文部科学省との交渉・研究構想案作成
- ・ データ収集、強み分析

申請中

- ・ 機関担当分申請内容企画・作成
- ・ 英文作成
- ・ 事務との学内調整



各々が得意なフィールドで力を最大限に発揮できた。

文部科学省やその他機関とのネットワークを活用した。

⇒RA協議会で獲得したネットワーク

RA協議会の今後の課題

- セカンドキャリア、テンポラリ職から、永続的な高度専門職としての定着
- 国際化にも対応した柔軟な高度専門人材育成
- RA協議会組織の自立化